

変化を、楽しもう。

ひのたに園園長 齋藤誠一

そろそろ令和6年度も終わりが近づいています。今年度もひのたに園は変化の年でした。同年の制度改正を受け、「保護施設通所事業」を開始したことに加え、「就労支援加算」「地域移行支援加算」の加算事業にも取り組みました。従来から取り組んでいる「住宅確保要配慮者への居住支援事業」も併せると、地域で暮らす支援対象者は70人に迫っています。

ひのたに園の利用者像もやはり年々変化しています。常時介護を必要とする利用者の数が年々減ってきている一方で、働くことや暮らすことに不安を抱える方々が新たに入所されてきます。

入所か地域かという2者択一ではなく、多様な働き方や暮らし方をカスタマイズしていく発想力と行動力が求められていると支援現場で気づかされます。

最近こんなこともありました。京都で開催された「ケアDXフォーラムin京都」に参加してきたスタッフたちと夕食を食べながら、生成AIなどの技術革新と福祉の仕事について、ざっくばらんに話をしていたとき、あるスタッフが「可能性しかないです！」と目を輝かせていました。単に、既存の仕事を効率化するという発想を超えた、大きな変化が目前に迫ってきているように感じました。

私は、福祉の現場にこそ新たな社会を築く気づきがあると信じています。

現場の第一線で奮闘する彼らが可能性を感じるこのことを取り上げない手はないと、固まりかけていた令和7年度の事業計画や予算に「ICTを実践に活かす職員の育成」との文言と数字を盛り込みました。

これからも社会はもちろん、ひのたに園もどんどんと変化していくことでしょう。そのことを私たちは楽しみたいと思います。

そして、変化の中で生まれる、その時代に必要な取組を持続可能にする。普及する。そんな仕事をしたいと思っています。



最近のひのたに園



クリスマス会

クリスマス会の前から利用者さんと一緒に準備を始め、園内の装飾はクリスマスらしい飾りつけをたくさん作ってください、雰囲気あるクリスマスを迎えました。

12/24クリスマス会当日は、午前中は映画の上映、午後にはビンゴ大会を利用者さんと職員も一緒に楽しみました。ビンゴ大会はそれぞれ気になる景品のためにとても張り切って参加されました。昼食では職員がホットプレートでお好み焼き作り、焼きたてのものを食べ放題という形で提供しました。「焼きたてが美味しかった」と嬉しい感想をたくさんいただきました。喫茶は職員のデコレーション付きケーキを食べ、その後はささいなプレゼント渡しもあり、いつもとは違う特別なクリスマスを過ごせました。(杉田)

インクルーシブクリスマス

ひのみんなの食堂 クリスマス会

大きなクリスマスツリーにつみきのおもちや、ぬり絵のワークショップにカロムや絵本の読み聞かせ、日野菜、がちゃこん登場！（近江鉄道さんのゆるキャラ）、ゲームコーナーにお菓子やごはん…等々、もりだくさんの会場内。町内のこども食堂や企業が集まって、クリスマス会を開催しました。当日はなんと約500人もの方が足を運んでくださいました。

今回ひのたに園は、ケーキとドリンクを準備し【カフェつどえば】を出店。嬉しいことにあっという間に売り切れ、みなさんに「おいしい！」と喜んでいただきました。いつものキッチンつどえばに来てくださっている方も、初めましての方も、たくさんの方の笑顔でとてもすてきな1日になりました。(田中)



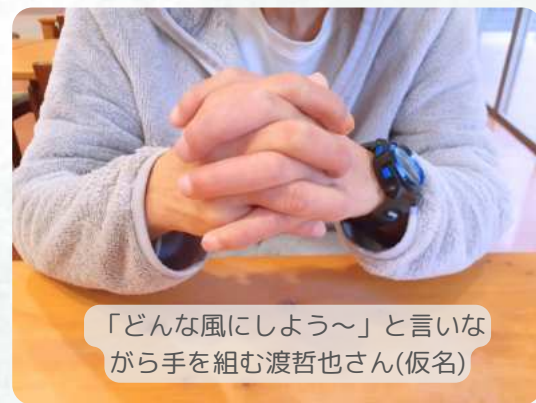
いつも優しい言葉をかけて下さり、ひのたに園の変化にすぐ
に気づく発見上手な渡哲也さん(仮名)に話を聞きました。

>出身はどこですか？
愛媛県です。

>どのような仕事をされていましたか？
15、16歳の時はタオルの会社で働いていたで、仲いい先輩もいた。パチンコで遊んだりもしてた。30歳の時に11トトラックの長距離運転手になるためにタオル会社を退職したな。
でもいろんな理由があってやめなあかんくなった、運転も続けられなくなった。
勤めてたトラック会社の社長が事務仕事してくれる人見つけてくれへん？って僕に言ってきて、タオル会社に勤めてた時の仲のいい先輩の奥さん紹介した。先輩はその時焼き鳥屋さんしてたけど。奥さんも子どもを大学に行かせるために働くって。子どもは無事に大学行けたんだって。それで奥さんが僕に「もう一度トラックの運転手になって欲しい。」って多額のお金くれて、僕ももう一回運転できるようになったよ。結局運転手は50歳まで続けたけど、体力がなかったから退職した。
僕らの時代はナビが車についてなかったから、自分たちで地図見て行先までのルートを確認してた。苦じゃなかったよ。

>その後はどうされたんですか？
ホテルに入っているレストランの調理師をしていたよ。料理するのはそこそこ好きやからね。フランス料理を作ってたよ。
お客様に喜んでもらうための魚料理。常連の人も出来て泊りに来てくれた。
味付け覚えてるから、またフランス料理作りたいな。また調理師の仕事もしたいな～。

渡哲也さん（仮名）



「お客様に喜んでもらうための魚料理。常連の人もできて泊りに来てくれた。」

(聞き手・文 藤井)

人生いろいろ

北村彰さん

今まで多くの飲食業に携わってきたという北村さん、一筋縄では行かなかった飲食業の経験をお聞きました。



>北村さんはどこ生まれなんですか
京都の宇治市。高校まで、伝統の4軒長屋に住んでたんです。4軒が立って1軒の家になっているんです。

>高校の時はどんな風にすごされたんですか。
高校一年生の頃から、寿司屋でアルバイトしててね。アルバイト募集で名前聞いたことあるから行ってみようかとなったんやけど、ちょうど昼飯時ぐらいにいったんですけど、あんまりうまそうに食うから採用したって言われた。

>まさかの採用理由ですね、飲食業をよくやられていたとお聞きしていましたが、どんなお店をされていたんですか。
テナントビルの募集があって、2階ワンフロアを借りて「オニオン倶楽部」っていうレストランバーを2年ほどやったんや。そこが焼失したんやわ。煙に巻き込まれそうになりながら生き延びて、火災保険入っていたのにまるまる出すことになって、僕自身は一文なしになってしまった。

>衝撃ですね、、、そのあとは何をされたんですか。
その時に、むしゃくしゃしてフィリピンに遊びに行って、どないしようかうやむや考えるようになって、「店やる気あるか」って日本に住んでたことがある人間に言われたんや。で、話して店買い取るようになって、「AHOYANEN」という店をはじめた。向こうの風土食あるやろ、そういうのとか、日本のやきそば、どんぶりとかの大阪の食べ物をメニューに入れた。向こうのホテルでコックしてたひとやら、カクテルが作れる子をアルバイトで引き抜いて、始めたんや。

店買い取ることになって、「AHOYANEN」という店をはじめた。

(聞き手・文 北岸)

ピカッとアート



毎年ぴかっとアート展には、ひのたに園から作品をいくつか応募しています。今年は、5作品応募し、3作品が入選することが出来ました。利用者の方も、自身が制作した作品が、多くの方々に見てもらえることをとても喜んでおられました。また、今年は伊藤勝氏の作品が「佳作」に選ばれ、表彰式にも出席されました。たくさんの人が集まる中で作品を紹介してもらい、貴重な機会になったかと思います。

これまでひのたに園では、自分を自由に表現する場として、アトリエセラミカでの陶芸やアートクラブでの作品制作を活動してきました。これから、その作品たちがたくさんの方々に見てもらえる、また手にとって楽しんでもらえるような機会を作っていけたらと思っています。(川島)

居宅生活訓練事業

この事業の目的は「自分の力で地域での生活ができるようになる。」ことです。

地域での生活がしたいと希望される方で、実際に体験し地域で生活出来るかどうか、生活するには何が必要かを判断し考えながら生活する場所です。ひのたに園から歩いて20分ほどの所にあるアパートを5室借りていて、そこでこの訓練をされています。

期間は基本1年間、その方の生活の仕方がそれぞれあり具体的に見えてきます。その間に生活の様子を見て市町の福祉と調整していきます。

次の行先はアパートやグループホーム、ひのたに園だったり様々ですが、この間いろいろ考え、工夫されイキイキと生活されているのが印象的です。

(島田)



ふじの園内作業



利用者の就労意欲向上を目的に環境整備や清掃などの一部の仕事を、利用者の方をお願いしています。担当していただいている方々には、園から工賃をお渡ししています。施設の周りの草刈りや枝木の整備から園内の清掃まで幅広く取り組んでいただいております、ひのたに園の景観が綺麗に保たれているのは参加していただいている方々のおかげだと感じています。みなさんしっかりと仕事意識を持ち丁寧に行ってくださいるので、大変有り難いかぎりです。

(北岸)